

おおつぽ きのよ
大坪 絹代さん(37歳)
営農地:八女市蒲原
主な農産物:キク



夫の驚きの決意から、巡り巡ってやりがいに!

● 就農のきっかけ

憧れの「サラリーマンの妻」になるはずが…

全国に誇るキクの大産地、八女。その農家の長女として生まれた大坪さんは、「学生のころ、キク中心の生活が嫌だったんですよ。」と苦笑いして話を始めてくれました。

そんな彼女は、20歳からアパレルメーカーに勤務し、福岡市天神で流行の先端を走る仕事に従事します。

そして、設備会社に勤務する夫と出会い、結婚。「キクから離れた、念願のサラリーマンの妻、になる予定だったんですけど。」と何やら訳ありの様子。

夫は結婚前から、大坪さんの家業であるキクの農作業を手伝う、優しい人。ところが、あくまで手伝い、と思っていた彼女は裏腹に「夫が、『農業は面白い。やってみたい。』って言い出したんですよ。『えーマジで!』って感じですよ(笑)。」と話してくれました。

かくして大坪さん夫婦、キク農家への道を歩み始めることになったのです。

● 私の今～就農後の道のり～

素敵!と思ったら即試作

「夫の決意は固く、結局うち(大坪家)でキク栽培を始めました。父と母と夫と、いつも頑張ってくれています。私がやり始めたのは、下の子が小学校に行きだしてからだから、まだ3年目くらい。」と大坪さん。ただ、きっかけはそれだけではなさそうです。

「同じ時期、偶然テレビでみた『フエゴ』というキクの品種に一目ぼれて、すぐ作り始めたんですよ。」と目を輝かせます。「生け花を習っている先生に見せたら、すぐ使いたいって言って。共感してもらえたのがすごく嬉しかった。」と振り返ってくれました。

その後も、主力の輪ギク栽培に一生懸命取り組むかたわら、「デコラ」や「ピンボン」など様々な種類のキクを少しずつ試作している大坪さん。いろんな人に見せて感想を聞くことが楽しみのようなようです。

● これからの夢、目標

大切にしたい伝統と新たな価値の創造と

「花が大好きな方や使って頂いている方に、私からどんどん提案していきたいんです。これ素敵でしょ、みたいな(笑)。求められて作るのも悪くないけど、自分から発信して流行を生み出していけたら楽しいと思う。まだ先の話ですけどね(笑)。その一方で、昔から葬儀に使われることが多い輪ギクを大切にしたい。だって、いろんな方の人生の、最後を飾る花じゃないですか。そこをもっとアピールしていきたい、って強く思うんです。」と熱く話してくれました。伝統や歴史を重んじつつ、チャレンジ精神も旺盛な大坪さん。今後の活躍が楽しみです。



プロフィール

■家族構成/本人、夫、子2人、父、母、妹 ■営農年数/約3年
■耕作(経営)面積/0.57ha ■販路/JA共販

就農を考えている女性へ ♡

農業は、自分たちが頑張った分かえってくるし、やり方次第で時間もつくれる。仕事は仕事、遊びは遊び、って自分たちで切り替えられる。そういうところが魅力だと思います。あ、話の流れからいうと、「今ではそう思います」ってことです(笑)。